

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572607752		
法人名	有限会社 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい仙南		
所在地	秋田県仙北郡美郷町野荒町字街道の上235-3		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.akita-longlife.net/evaluation
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成22年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを大切にし、利用者のその時々のお気持ちや要望に答えられるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人の気持ちに寄り添い、やすらぎと笑顔を」のもとに、利用者の笑顔をチェック表を作成されたり、利用者の気持ちに寄り添うための疑似体験を行い、アンケート結果をまとめ、ステップアップに繋げる等、優れた取り組みが観られます。また、利用者状況に応じて方法を変えての避難模擬訓練が行われており、職員の災害時に対する意識付けも出来る等、工夫が観られます。運営推進会議で話題とされる参考資料は、事業所が取り組まれていることをメンバーを通じて、地域、市町村に発信する素晴らしい内容となっております。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々のお気持ちや要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表者(管理者)と職員全員で考えた理念をつくり、日常の業務のなかで話し合いながら、実践している。	「その人の気持ちに寄り添い、やすらぎと笑顔を」の理念を掲げ、事業所内に掲示と日頃より話題にされ、「笑顔」がどんなときに表れるかをチェックされる等、優れた取り組みをされ実践に繋げております。	更に、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念の構築を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校の学習発表会や、敬老会、逆ディーサービスの参加、イベントに出かけるなど。地域の方々との交流の機会を作っている。	散歩時には声をかけていただき、花や果物等をいただいたり、学校や地域でのイベントに参加したり、「まちかど相談所」として地域の相談場所とする等、地域の一員として交流を図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	町内の「まちかど相談所」として、又、「認知症介護に関する相談窓口」として登録している。「認知症」について、地域の人達に理解してもらえるように、運営推進会議でテーマにしたり、電話での相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さんや、職員に関する活動状況の報告や課題を取り上げ、参加者の意見を頂き、実践に活かしている。メンバーが欠席されることもあるが議題によっては、メンバー以外の方に出席してもらうなど、構成メンバーの充実に関心している。	2か月に1回、定期的開催されており、活動状況報告や非常災害対策、認知症サポーター養成講座、新任職員研修から疑似体験後のアンケート結果とまとめ等、参加メンバーにも納得のいく会議内容となっており、記録も整備されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の担当者が、介護保険事務所の職員であり、協力をいただいている。	利用状況報告が行われ、待機者の紹介や各種制度の相談、助言等で連携を図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束に関する行為を理解しており、玄関は夜間以外、施錠はしません。外に出る利用者さんには、納得ができるまで、同行するなど、危険防止に配慮している。	身体拘束をしてはならないことを日々、話題にされ全く行われておりません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会参加者による内部研修を行っており、職員は理解できている。介護の必要性の多い利用者さんに関しては、職員間で話し合いを繰り返して、職員のストレスにならないように心がけている。		

グループホーム あじさい仙南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会参加者による内部研修を行っており、職員は理解できている。 退所された利用者さんに、地域権利擁護事業を利用していた方がいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に文章や口頭で説明し、不安や疑問がないか確かめている。入所中の改定があったときも文章や口頭(電話など)で説明、必要に応じて、署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者さんとの会話や、面会時の家族の会話などから、要望や意見を見出し、運営に反映している。	意見箱の設置や面会時、また電話等での状況報告時に意見や要望を引き出し、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に職員の要望を促している。毎日のお茶の時間などは、気軽に気づきや意見を話せる場所として、活用している。内容によっては、運営者の意見を委ねることもある。	話しやすい雰囲気作りをされ、お茶の時間やミーティング時に意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務年数や、実力に合わせた研修への参加、資格取得に応じた手当の支給など、職員が働きやすい環境に配慮してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの立場に合わせた研修へ参加し、それを内部研修の課題として研修発表をおこなっているが、1号館、2号館の職員の意識の統合と親睦を図る為にも、合同の会議や研修会を設けられるように工夫していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修に参加し、交流の機会を深め、質の向上に努めている。		

グループホーム あじさい仙南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に本人と家族に面接し、不安や要望などを聴き、安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に本人と家族に面接し、入所までの家族の苦労を労い、要望を傾聴し信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする	本人と家族が必要としている事をよく話し合い、必要なサービスを補充している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が話す昔の生活や、地域の行事などに耳を傾け、自分の親を思い出すことが多い。季節に合わせた食材の利用の仕方や、その時々々の風習などを教えてもらう機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の様子や思いを家族に伝えている。自宅への宿泊、一緒に外出、必要に応じては受診に同行してもらうなど、家族との関わりが持てるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前に利用していた美容院や床屋、時計屋などを、継続して利用している。	本人がこれまで通い慣れた理美容院の活用や病院、仏事、墓参り、自宅・姉妹宅・友人宅訪問、友人の訪問等、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れることの無いように支援をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の重度の方を、お世話してくれる方、歩行が不安定な方に手を貸してくれる方などがおります。その都度労いの言葉を掛けることで、良い関係が保たれている。		

グループホーム あじさい仙南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅介護に戻られた方の様子を伺ったり、家族の方の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らし方や、希望など一人ひとりの思いを尊重している。困難な方には、日常の会話や行動の中で気づいたことを、職員で話し合っている。	日常会話の中で本人の思いや意向の把握が行われ、困難な場合は、生活歴や性格、表情や動作、行動から職員で話し合い、把握に努めております。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族から、詳しく聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の状況や状態を記録、口頭で申し送りをして職員全体で把握している。特に本人が自主的、意欲的に行ったことは、継続できるように話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、職員間で話し合いをして、介護計画を作成している。	これまでの情報や日々の気づきを会議で話し合い、本人や家族の意向を反映し、現状に即した介護計画が作成されています。また、ファイリングにも見やすい工夫をされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から、職員間で情報を共有し、定期的に、又、新たな課題が見られたときなどに、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする	定期の往診以外にも、体調不良時の通院や薬の依頼、受け取り、入退院時の送迎などの支援している。		

グループホーム あじさい仙南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署員と近所の人達との共同の避難訓練、中学生の訪問、小学校の学習発表会の参加など、地域との関わりを大事にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に合わせて、入所前に利用していた医療機関や薬局を、継続して利用できるように、職員が同行して支援している。	本人・家族の意向に沿ったかかりつけ医の利用ができ、受診時には事業所で付き添われ、結果報告が行われております。また、協力医の往診や訪問看護の利用も可能であり、薬の受領も行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師に、週1回定期的に訪問してもらい、体調の変化や気づきなどを話し合っている。状態悪化時には電話で連絡し、受診がスムーズにできるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期であることを、主治医から家族に充分説明してもらい、事業所の出来ることを説明した上で、家族にも協力をいただき、主治医、看護師、職員が連携をとり、ホームでの看取りを経験しております。	医療行為が発生した場合には事業所での限界を説明され、家族、主治医、訪問看護、事業所と十分な話し合いと連携のもと、すでに3ケースの看取りが行われています。職員も方針を共有され、チームで支援に取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網、対応マニュアルを作成しており、研修を行っているが、年間の回数を増やし、実践力アップをしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の指導で、日中・夜間想定避難訓練を行っている。近所の人達にも参加してもらっている。	大きな訓練は年2回、消防署員立ち会いのもとに行われていますが、他に、毎月、重度の方の避難方法についての訓練を実施する等、優れた取り組みが観られます。また、近隣への協力依頼もされています。	

グループホーム あじさい仙南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の求めていることに共感し、思いが実現できるように職員間で連携をとって対応している。又、失禁が予想されるときは、すぐに対応するのではなく、外出、入浴、レクなどのタイミングでトイレ誘導を行うようにしている。	一人ひとりの人格を尊重された言葉かけが行われ、プライバシーにも十分に配慮が観られました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い人には、近くでゆっくりと話しかけたり、認知症が重度で、言葉の理解が出来ない人には、付き添って一緒に行動している。又、外出や買い物の希望があれば、本人と一緒に出掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースに合わせた声掛けをして、強制をしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	馴染みの美容室や床屋さんが利用できるように、又、衣類や靴の購入など、家族から了解を得て職員が同行で支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自発的なお手伝いの受け入れや、強制のないように声掛けをするなどして、食材の下処理、配膳、後片付けなど職員と一緒にやっている。	食材の下ごしらえや配膳、下膳など、出来ることのお手伝いをさりげなくお願いされ、話題づくりが行われておりました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、チェック表に記入して把握している。その人に合わせた調理方法(きざみや、嫌いな食材を使わないなど)を行い、食べ残しの原因なども話し合っている。水分を控える方には、水分摂取の大切さを話し、多く摂ってもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、自力で可能な方は見守りを、歩行の困難な方には、車椅子で移動して介助で行っている。		

グループホーム あじさい仙南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、長時間排泄のない方には、食事の手洗い時やおやつの前にトイレに誘導したり、失禁が予想されていても、無理に誘導はせず、トイレに入ったタイミングで汚れた物をさりげなく交換している。	排泄チェック表を活用され、利用者の状況を把握し声掛けに工夫をすることで、排泄支援に結び付けております。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で日勤、夜勤時に排便状況を口頭で申し送りしている。水分を控えすぎみの方には、水分摂取の必要性をお話したり、好みの飲食物を摂ってもらうなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯の希望のある方に合わせ、他はその都度声掛けで同意を得て入浴している。拒否がある時は、時間やタイミングをずらして行っている。	入浴は、火・木・土曜日と決められておりますが、その中で意向に沿った支援が行われております。入浴できない時には陰部清拭が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方からは、職員と一緒に過ごす時間を多くし、不安がないように配慮している。夜間徘徊のある方には、眠くなるまで職員が付き合い、一緒にリビングのソファで休むこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が、必ずお薬手帳を確認するようにしている。薬に変更があったときは、業務日誌に記入、更にメモで周知するなど、職員全員が共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	廊下や玄関の掃除、洗濯物たたみ、食事準備や後片付けなど、その人の力に合わせた役割で行ってもらっている。又、毎日夕方に行っている合唱の時間には、楽しんで参加してくれている、		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	散歩、自宅や買い物など本人の希望に合わせて、職員同行で外出している。大仙市や美郷町で開催されるイベントや季節に合わせたお花見などに出かけたり、家族と温泉に行ったり、お墓参りなどができるように支援している。	一人ひとりの希望に沿った外出支援が行われており、普段行けない場所へはドライブや外食を兼ねて実施されています。	

グループホーム あじさい仙南

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、お金をもってもらっていて、買い物や訪問販売の支援をしている。管理の出来ない方には、買い物や美容院に行く時にお金を持ってもらい、支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話が掛けられるように支援している。ハガキや切手なども、必要に応じて提供できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンやブラインドなどで光の調節をし、音や臭いにも充分配慮している。玄関やホールに花を飾り、季節を感じるようにしている。	利用者の状態に合わせて、テーブル席や椅子、足元の工夫等に配慮され、花や作品を飾ることで季節感が感じられます。また、テレビやソファの位置から、外が眺められ、山々や木々の移ろいが感じられる造りとなっております。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	限られたスペースではあるが、玄関にソファを置いたり、お茶の時間にはちゃぶ台を使用したりして、気の合う人同士が、好みの場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との話し合いの上で、自宅から使い慣れたものを持ち込んでもらっている。位牌や亡くなった方の写真を持ち込んでいる方もあり、お水やお花を飾れるように支援している。	ユニットによる違いはありますが、居室には、絨毯が敷かれ、好みの物が持ち込まれており、生活感のある「自分の部屋」を感じられます。また、他にも居心地良く過ごせるように工夫が観られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや老人カーを使用しての、自力での移動を見守りしている。夜間はトイレや洗面所に豆球を点けて安全に配慮している。		